

天水中学校区新しい学校づくり委員会 協議のまとめ

天水中学校区新しい学校づくり委員会は、令和元年12月から協議をはじめ、令和4年3月まで計9回の協議を行ってきました。協議のテーマを次に示します。

- ・天水の子供たちや学校の良いところ、ここが良くなったらもっといいなと考えるところ
- ・より良い学びの環境をつくるために何が必要なのか
- ・学力向上のための方策と教育環境の改善について
- ・学級及び学校の規模について
- ・統合についての基本的な考え方
- ・天水中学校区が目指す小中一貫教育
- ・天水中学校区の未来像（統合しない現状のまま、仮に統合した場合の学校舎の位置についてのメリット・デメリット）

これまでの協議においては、多くの委員から、天水の子供たちは、玉水と小天の保護者、地域、学校が見守る中、あいさつがよくでき、やさしく、素直な子供たちに育っているという意見がありました。その反面、もっと子供たちの自主性・積極性を育てたい、競争力を高めたいという意見もありました。

そのために、子供たちにどういった環境を整えることができるのかを協議の中心に据え、その求められる教育環境として、コミュニケーション能力や思いやりをはじめとした人間力を向上させるための「多様な他者と触れ合える環境」や「切磋琢磨できる環境」がまずは必要ではないかと考え、加えて、ICTの整備、小中一貫教育の充実、施設の充実、地域との連携、安心・安全の確保等が必要になると考えました。

また、令和2年度の住民基本台帳を基に令和8年度の児童数を推計し、統合しない場合と統合した場合の学級・学校規模のメリット・デメリットについて協議を行いました。そこでは、統合しない場合は、小規模にはなるが、子供への関わりが増え、個に応じた指導が充実し地域との連携があるといった意見が出され、反面、多様性が少なく、視野が狭くなりがちというデメリットがあるという意見が出ました。統合した場合も小規模には変わらないが、学校の規模は約200人となり、PTA・先生の運営体制が強化できる、多様な考えに触れることができる、切磋琢磨できる、

集団スポーツができるといった意見が出ました。また、デメリットとして個別指導が難しいなどの意見も出ました。

第5回委員会では、統合についての基本的な考え方について協議を行いました。委員からは、「子供が今後減少していく傾向を考えると、天水だけではなくもっと広範囲な統合になり、もしかすると天水から学校がなくなるのではないかという不安がある。」、「複式学級になってから統合を考えるべき。」といった意見が出ました。

第4回、第5回の委員会では、委員から「今の保護者、特に低学年以下の保護者に学校づくり委員会の意見、結果を見せてアンケートをしたらどうか。」といった意見も多く出されました。

そして、最後となる第9回委員会においては、統合しない現状のまま、仮に統合した場合の学校舎の位置について、メリット、デメリットを協議しました。場所ごとの考えをまとめるのは難しい作業でしたが、学びの主役である子供たちにとっての最善策は何なのか、そういった視点で話し合い、最後に各委員から意見をいただきました。子供たちにとって、より良い教育環境を整えるという、より上位の目的意識を見失わないことが大切だと考えます。

人口と年少人口の今後一層の減少が進むと予想される中、高度な情報化・グローバル化の急速な進展やAIの発達などにより、子供たちは、今の私達には想像もつかないような世界を生きていくことになると考えられます。子供たちの10年後、20年後、30年後、今の小学6年生は、10年後は22歳、20年後は32歳、30年後は42歳になります。その時に、自分たちで人生を生き抜く力をつけるための教育環境を、私達大人は整えていく必要があります。

協議を通して常に一貫していたのは、天水町の子供たちはやさしく素直でとても素晴らしい、そういった委員の共通の思いでした。その中で、これからの教育と子供たちの未来を考えた時、子供たちがたくましく生き抜く力を身につけるためには、多様な考えに触れて切磋琢磨できる環境を整える必要があると考えます。

教育委員会においては、この天水中学校区新しい学校づくり委員会で協議してきた内容を基に、天水中学校区の学校再編について、「子供のための教育環境整備」の観点を第一に考え、しっかりと議論し検討していただきますよう望みます。

天水中学校区新しい学校づくり委員会